

日本財団
もう一つの家における地域づくり等
2022年度 事業報告書



特定非営利活動法人ホームホスピスこまつ

目 次

1. 生と死の文化を豊かにするコンサート
「魂のいちばんおいしいところ」 P2
2. 地域入浴支援事業 P4
3. ややさんの多世代交流
 - (1) 防災教室 P5
 - (2) 苔テラリウム P5
 - (3) お餅つき大会 P6
 - (4) おむすびややさん P6
 - (5) 庭づくりワークショップ P7
4. いのちの学校
 - (1) いのちの学校 No.1－イノベーションはつづく－ P11
 - (2) ホームホスピスの空間づくり
－穏やかに最期まで暮らす場のあり方－ P12
 - (3) 小松がんと共に自分らしく生きる会「まんまーる」 P13
5. 在宅ホスピスパートナー養成事業
 - (1) 在宅ホスピスパートナー養成講座 P14
 - (2) 身じまいの文化 P15
 - (3) 暮らしの保健室 P15
6. 情報発信
 - (1) ホームページの作成 P16
 - (2) つうしん「こちら末広町 88 番地」の発行 P17
 - (3) パンフレットの作成 P17

1. 生と死の文化を豊かにするコンサート「魂のいちばんおいしいところ」

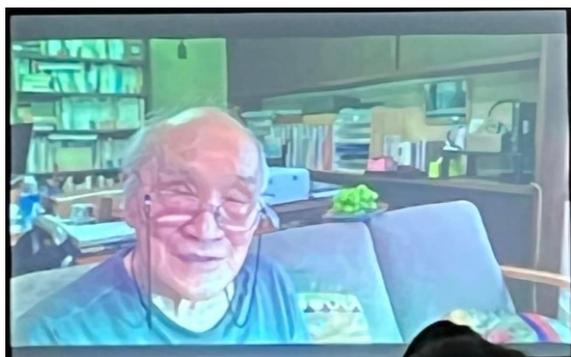
【開催日】9月24日（土）13：30～15：30 称名寺

【ゲスト】Diva／谷川賢作（ピアノ）、高瀬‘makoring’麻里子（歌手）、大坪寛彦（ベース）
覚和歌子（詩人）、スペシャルゲスト 谷川俊太郎（詩人）

【参加者】69名（スタッフ含む）



ホームホスピスの理念と生と死の文化について、看取りについて理事長よりお話



【アンケート】

- ・歌や朗読を聞き、何度も大切な家族を思い浮かべ、幸せな気持ちになりました。特に8ヶ月になる娘を思い、心から生まれてきてくれてありがとう♡と思いました。素敵なお縁に恵まれた忘れられない日になりました。
- ・魂にひびきました。
- ・覚さんの朗読が心にしみ、マコリンの歌声が気持ち良かったです。エネルギーを沢山頂きました。親子で参加できありがとうございました。

- ・ Diva のみなさんと覚さんに力をもらいました。千秋先生に出逢えて、生きなおしてきて本当にしあわせです。ありがとうございました。
- ・ 幸せな一時でした。こちらこそありがとうございました。こんな近くて朗読、演奏、歌きかけてよかった～です。
- ・ キレイな歌声とステキな詩の朗読にとてもいやされました。ありがとうございました。
- ・ それぞれの方がとても丁寧に唄ったり話したり音を奏でていて、それが聞けてうれしかったです。ありがとうございました。
- ・ 今日のライブで置き去りにしてきたことばが陣痛し始めました！すばらしい秋の日をありがとうございました。
- ・ このコンサート、10 回 20 回目とこの会場で聴きました。みなさんががんばっていて、うれしいです。
- ・ 谷川俊太郎さんの”詩人なんて呼ばれて”という本を読んで、ファンになりました。その息子さんのコンサートを是非聴きたくて参加しました。マコリンの声と歌はとても好きでした。
- ・ 心が浄化された気がします。来れて良かったです。ホームホスピスにもまた伺います。
- ・ 久しぶりに音楽を楽しめて豊かな時間を過ごせました。本当にありがとうございました。
Diva、覚さん最高!!!

2. 地域入浴支援事業（終末期等の入浴困難者の入浴の支援）

【実施期間】 1月～3月

【実施方法】 終末期等の入浴困難者の「もう一つの家ややさん」の浴室を利用した入浴支援
月曜日～金曜日（要予約）
ご希望の方には送迎対応

【利用者】 利用者 10名

【評価】 ややさんのオープンが遅れたことで、冬期の積雪や新型コロナウイルス感染拡大の為、当日キャンセルが出る等、利用希望者は少なかった。又、スタッフの体制が整わない為、開所数か月は積極的なお知らせができなかった。
今回利用された中では、重身の子どもさんを持つご家族に非常に喜ばれた。高齢者だけではなく、重身の子どもさんにもニーズがある事がわかったので、今後は対象を広げていきたい。



【ご利用者様の声】

- ・デイサービスは行かないという主人ですが、家族でお風呂に入れる事ができず困っていました。最初はめんどくさそうな主人でしたが、久しぶりにゆったりと湯船につかり満足気でした。季節のいい時にもっと利用したいと思います。
- ・だんなが長期海外出張で不在だったので、重度の障がいがある娘に、終末に連続して利用させて頂きました。娘といっても成人しているので、洋服の脱ぎ着から、抱っこして浴室に行き、身体を洗う、湯舟につかるといった一連の作業を一人で行うのは大変です。今回シャワートロリーを始めて知りましたが、介助者もとても楽な姿勢でお風呂に入れる事ができる事に感心しました。子供が大きくなると親は歳を取る、在宅で子どもを見るには入浴は一つの課題でした。ややさんができて本当によかったです。また、だんな不在の時は是非利用させて頂きます。
- ・今回は見学だけだったが、スタッフが快く送り迎えをしてくれて嬉しかった。車いすでも楽にややさんに入れるし、お風呂も見せてもらっていいなと思った。次回、機会があれば一回は利用させてもらおうと思う。リビングに行くと、皆さん気さくに話しかけてくれて、知り合いの家に遊びに来たような雰囲気でもとてもよかった。

3. ややさんの多世代交流

(1) 防災教室

【開催日】12月6日（火）

【講師】林 由美子 氏（あうわの会）
※視覚障がいの方の就労を考える会

【内容】「障がいから見てくる防災への課題」
目が不自由な林さんが当事者としての体験を語り、街の中での課題やいざという時に普段からの関わりが大事であることを語った。



【参加者の声】

- ・当事者の話を聞き、日常が整っていてこそその災害時につながることに気づかされた。
- ・視覚障がいの方々の日常と非日常にお役に立てるような小さな一歩を踏み出したいと思った。
- ・避難所では白杖そのものが周囲の方々に危険になるので、空気で膨らんだ棒のような安全なものがあればいいなど意見があったが、当事者の視点で考える事でいろいろな気づきがあった。

(2) 苔テラリウム

【開催日】12月16日（金） 10:30~12:00

【場所】コミュニティスペースとんとんひろば

【参加者】参加者 10名



(3) お餅つき大会

【開催日】1月8日(日) 10:30~12:00

【評 価】参加者約70名

ややさんのオープンが遅れた影響でスタッフ体制を整える事に時間がかかり、野菜市やフリーマーケットを開催できなかった。代わりに、3年ぶりとなるお餅つきを開催したが、町内の方やボランティアの方々が集い、笑い声の溢れる一日となった。当日はすぐそばの会場で成人式が行われていたため、ふるまい餅も行った。又、成人式を迎えた入居者様のお孫さんも顔を出され、みんなでお祝いできた。



(4) おむすびややさん

【評 価】あぐらの会のボランティアさんが屋台を作って下さった。活用までには至らなかったが、次年度すぐ開始できる準備は整った。



(5) 庭づくりワークショップ

- 【開催日】第1回 2月19日(日) 「どんな庭になったらいい？」
第2回 3月4日(土) 「お庭でワークショップ No.1」
第3回 3月11日(土) 「お庭でワークショップ No.2」
第4回 3月21日(火) 「お庭でワークショップ No.3」
第5回 4月23日(日) 「巣箱作り」
第6回 4月24日(月) 「苔とチップで庭の全景を整えよう」
第7回 5月22日(月) 「木に名前をつけよう」

【参加者】毎回 約3名～8名

【講師】白山麓ナーセリー

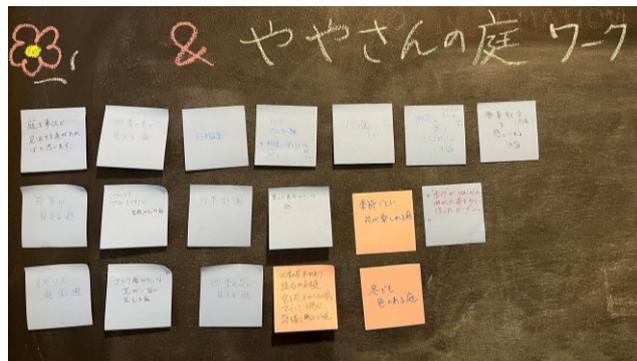
【評価】ややさんの完成が遅れたこと、新型コロナウイルスの感染拡大、完成後は冬期の積雪と重なるなど、実施できない企画があった為、白山麓ナーセリーさんのご指導のもと、メインとしていた庭作りに力を入れた。当初、デッキを作る予定であったが、庭のスペースが少なくなる為、作らないこととした。

■第1回「どんな庭になったらいい？」

【参加者】9名

【ワークショップで出た意見】

- ・四季の木が見える庭、
季節ごとに花が楽しめる庭、
冬でも色のある庭
- ・四季の花、木があり踏石がある庭
落ち着くイメージの庭
空と花、木がバランス良くマッチしている感じ
- ・お花の香りいっぱいのお庭(ラベンダー、金木犀とか)
- ・“歩行”がメインの曲がった道を多く作ったガーデン
- ・庭を車イスで見回せる道があるといい
- ・茶室が見える庭
- ・イギリス庭園風、バラ園、プチトリアノン宮殿(フランス)みたいな庭
- ・ゴルフ場みたいな芝が一面に見える庭
- ・ハーブ、柑橘類(アロマ、料理に使えるような物とか)
- ・東山の苔寺みたいな庭、日本庭園



<みんなが作りたい庭>

季節を感じる植栽、鳥や虫たちのいる庭、畑づくりスペースがある
入居者の方が車いすでも散策できる庭 ⇒ 散策スペースを考慮しデッキは作らない

■第2回「お庭でワークショップ No.1」

【参加者】4名

【内 容】・土壌の状態や方角など庭の現状確認
・これからの作業及び庭の掃除

【評 価】これまで庭は手つかずだった為、隣の敷地との間の木や生垣が伸び放題だった為、伐採や剪定が大変だった。
入居者様が興味を示され、縁側から様子をご覧になっていた。近くにいた参加者とお話しされ、自然な形で交流が生まれよかった。

■第3回「お庭でワークショップ No.2」

【参加者】5名

【内 容】庭の掃除

【評 価】第1回目みんなで考えた庭と第2回目の庭の確認を基に、白山麓ナーセリーさんがイメージ図を描いてきて下さったので、みんなでイメージを共有する事ができた。
ややさんになる前に住んでいらっしゃった方が胡柚を植えられていたが、ダメにしてしまったので、追加で植える事にした。

■第4回「お庭でワークショップ No.3」

【参加者】3名

【内 容】樹木の整備、整地

【評 価】もともとあった木を整えるだけで庭がすっきりしてきた。作業を通して、庭づくりのノウハウを熱心に聞く参加者もいた。
車いすの方が庭を散策できる道を作る予定であったが、道を作ると庭のスペースが少なくなってしまうので縁側の前に石畳を敷き、そこで庭を眺められるようにする事にした。石畳は、次回までに白山麓ナーセリーさんが完成させることにした。



■第5回「巣箱作り」

【参加者】5名

【内 容】新しく入られたご入居者様が鳥が好きだという事を知り、ワークショップでも鳥や虫たちのいる庭という案が出ていたので、庭に巣箱を設置することにした。

【評 価】巣箱だけではなく、鳥のえさ台も作り、お部屋から鳥たちの様子が見えるようにした。

入居者様の好きな事を叶えようという参加者の思いにご本人もご家族も喜ばれた。お部屋から庭を眺められるという目標に近づいてきた。



■第6回「苔とチップで庭の全景を整えよう」

【参加者】8名

【内 容】仕上げに苔とウッドチップを敷く

- ・苔のお話
- ・ウッドチップの効果について

【評 価】作業の前にそれぞれの説明を聞いてから行った。

木の周りに苔を敷くだけで庭の雰囲気が出た。又、ウッドチップを敷くと庭がとてもおしゃれになった。ウッドチップの香りがとてもよく、いい匂いの中で作業は癒された。ただおしゃれなだけではなく、雑草対策や雨の日に外に出てもぬかるみに汚れる事がないなど教えて頂きとても勉強になった。

参加者の中にも自宅の庭に苔を敷きたいなど、これまでやってきた事をいろいろと取り入れようとする意見など聞かれた。





■第7回「木に名前をつけよう」

【参加者】3名

【内 容】 ややさんの庭の木の説明と庭の木に名前をつける
夏場の水やりについて

【評 価】 改めて木の説明を聞いて名前を知ると、愛着がわいた。

全体評価

全回を通して参加する人は少なかったが、専門家から庭づくりを教わる事ができ、参加者には好評だった。今回の庭作りを通して、入居者様、スタッフ、参加者に自然なコミュニケーションが生まれていたのがよかった。入居者様はお部屋から庭を眺める事ができるようになって非常に喜ばれている。又、これからはややさんを訪ねる方にお庭もご案内できるのが楽しみである。



4. いのちの学校 (看取りや身じまいについて当事者と専門職から学び語り合う学校)

(1) いのちの学校 — イノベーションは続く —

【開催日】8月8日(月) 19:00~21:00 オンライン開催

【参加者】約100名

【講師】秋山正子氏(認定NPO法人マギーズ東京 共同代表理事)

市原美穂氏(全国ホームホスピス協会理事長)

司会・コーディネート: 榊原千秋氏(NPO法人ホームホスピスこまつ理事長)

【内容】地域の耕し方、構想を実現してきた道のりについて、それぞれの知見を語った。

※「レディフォー」HPにて掲載

<https://readyfor.jp/projects/yayasan/announcements/227067>



【参加者の声】

- ・看護や介護は人に対する関心、好奇心、興味だと改めて感じた。
- ・何度も涙が出てしまうようなお話に、改めて自分がどこに進みたいのか考えた。
- ・最初から最後まで言葉の玉手箱のような温かいほっこりした気持ちだった。
目の前の人に興味を持つ事の大切さ、小さな事も積み重ねれば形になっていく、そんな大切な事に気づかせて頂いた。

(2) ホームホスピスの空間づくり ― 穏やかに最期まで暮らす場のあり方 ―

【開催日】2月26日(日) 10:00~12:00 ハイブリッド開催

【会場】コミュニティスペースとんとんひろば

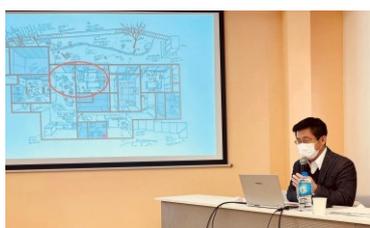
【参加者】57名(会場:7名、オンライン:50名)

【講師】山口健太郎氏(近畿大学建築学部教授)
黒岩雄二氏(全国ホームホスピス協会事務局長)
常橋明浩氏(空環境計画代表・一級建築士)
榊原千秋氏(NPO法人ホームホスピスこまつ理事長)
司会・コーディネート:園田真理子氏(NPO法人ホームホスピスこまつ副理事長)

【内容】住み慣れた街で生ききるための新たな場づくり、空間のあり方、環境について、介護・看護・医療や建築の分野を超えて語り合った。

【評価・参加者の声】

- ・セミナーの内容が「空間づくり」であったため、全国ホームホスピス協会と、地元の石川県建築士会小松能美支部の後援をいただいた。
- ・当初、参加申込みが少なく関心の薄さが危ぶまれたが、開催当日はオンライン参加者が50名にもなり、盛会であった。
- ・「もう一つの家ややさん」の実現にむけて、建築分野や不動産分野の地元の協力者が積極的に関わったことが紹介され、会場参加者、視聴者から評価された
- ・従来の施設や介護・看護に関する考え方が根深い中で、ややさんの挑戦的な新たな取組が地元でどのように評価され、馴染んでいくか課題だとの指摘もあった。



山口 健太郎氏



黒岩 雄二氏



常橋 明浩氏



(3) 小松がんと共に自分らしく生きる会「まんまーる」

【開催日】毎月第4日曜日 13:30~15:30

【会場】コミュニティスペースとんとんひろば

【参加者】述べ65名(当事者、家族、医療福祉従事者など)

【内容】病院ではない身近な場所でがんについて語り合える場所が欲しいという要望に応じて実施。お茶を飲みながらの座談会、足湯やフットマッサージ、ヘルシーおやつ作り、季節のハンドメイドクラフトなどを行った。

参加者に毎回お知らせすると共に、小松市の広報にも毎月お知らせを掲載。

【評価】「まんまーる」だけは絶対行きたいと思われている方が多い。スタッフ手作りの梅ゼリーに「これならさっぱりして食べられる」と食欲のない方が召し上がって下さる。当事者同士のおしゃべりなど、当事者の居場所になっている事にこの会を作って本当によかったと実感している。又、スタッフの細やかな心配りや声かけなども来られる方の安心感につながっているようである。

●まんま〜る・語りあえる場所

小松がんと共に自分らしく生きる会 時

1月15日(日)13時30分~15時30分 場と

とんとんひろば 対どなたでも 費無料

問NPO法人ホームホスピスこまつ ☎

48・4988 48・4977



小松市広報のお知らせ

5. 在宅ホスピスパートナー養成事業（人材育成・相談）

（1）在宅ホスピスパートナー養成講座

市民・学生・医療福祉従事者・在宅介護体験者などを対象に「看取りの文化の育み」「とことん当事者」「人として出会う」「聞き書き」を基軸に、地域でケアを受けている在宅療養者の人生を豊かにするパートナーとして活動できる人材を育成することを目的に講座を開催する予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大により予定していた秋の講座の開催が困難となった。そこで、方法を見直し、ホームホスピス「もう一つの家ややさん」での現場実習を通じて学習していただくことに内容変更した。

【受講生】31名（宿泊研修：22名、1日研修：9名）

東京、新潟、北海道、福井、金沢からの応募、いずれも介護職や看護職の経験者

【受講動機】・これからホームホスピスの開設を目指している

- ・ホームホスピスで働くことを考えている
- ・ターミナルの方の訪問介護や施設介護への再就職を考えている 等

【研修内容】受講生がもう一つの家ややさんのスタッフから、ホームホスピスもう一つの家々の理念や1日の流れ、入居者の状態に合わせたケア内容のオリエンテーション後、実際にケアを一緒に行った。双方向な関わりは、ややさんのスタッフも受講生の経験から学ばせていただく貴重な機会となり、ややさんのスタッフにとっても効果的だった。

【研修後】・もう一つの家ややさんでパートスタッフとして勤務（1名）

- ・もう一つの家ややさんの排泄ケアを通じた尊厳あるケアのあり方に関心を持ち
- POO マスターとして学びを深め活躍（1名）

※POO マスター：排便ケアを基軸としたとコミュニティケアのプロフェッショナル



入居者さんと受講生
デッキで日向ぼっこ



水泳部で平泳ぎが得意だった
入居者様と同じく水泳部だっ
た受講生との一場面



入居者様の担当者会議に受講生も参加
入居者様がややさんへ入られてからの
感想をお話されています

(2) 身じまいの文化

【開催日】2月23日(木・祝) 13:00~16:00 ハイブリッド開催

【参加者】41名(会場:25名、オンライン:16名)

【講師】春日キスヨ氏(社会学者)

【内容】入院も介護もなりゆき任せにしないための元気なうちからの「身じまい」について学び、語り合った。

【評価】看取りは他者への目線だが、身じまいはまさに「自分ごととして考える」ことで、入院も介護も人任せ、成りゆき任せにせず準備していく視点を学べたことは大きな気づきをいただいた。受講生は41名で、会場には、20代から80代までの25名で、オンラインでは県外や病院や施設から16名の参加があった。講義のあと受講生全員が体験を語り合う座談会を行ったことで、受講生同士も人として出会う機会となり効果的であった。特に、訪問看護のご利用者で難病の奥さんを自宅でお看取りされた介護者の実体験を本音で語っていただいたことは、貴重な機会となった。



(3) 暮らしの保健室

【対応期間】10月~3月

【相談方法】もう一つの家ややさんでの対面相談及び電話相談

【相談件数】80件(対面:36件、電話:44件)

【評価】ホームホスピスを通じての相談は、ご家族の最期の時間をより良いものにしたいという相談が多く、まずはじっくりと相談者のお話を伺う事に勤めた。親身な相談はもう一つの家ややさんに対する信頼も得られ、口コミでややさんの事を知っていただくことにつながったと共に、暮らしの保健室という誰もが気軽に相談できる場所がある事も周知されてきた。

6. 情報発信

(1) ホームページの作成

【完成日】8月

【内容】<https://hkk883.com/>



【評価】完成はしたが、ややさんのオープン後の体制を整えるため、細部までの見直しができず、地域づくり事業の報告もホームページ上で公開する予定だったが取り組めなかった。今後、更に多くの皆さんに必要な情報が行き届くよう内容の充実を図っていく予定である。

(2) つうしん「こちら末広町 88 番地」の発行

- 【発行日及び部数】・第 1 号（8 月発行） 800 部
・特別号（9 月発行） 400 部
・第 2 号（1 月発行） 700 部

【評 価】季節ごとに年に 4 回発行予定。スタートは、もう一つの家ややさんのオープンに合わせて第 1 号を発行。その後、開所式に合わせて特別号を発行と、順調に発行できた。当初は会員や地域の方を対象としていたが、クラウドファンディングなどご寄付頂いた方も含め、毎回約 700 名に（特別号除く）送付している。活動内容の報告及び会員募集という目的は達成されている。

(3) パンフレットの作成

【完成日】6 月

【部 数】2,800 部

【評 価】もう一つの家ややさんのオープンに向けてパンフレットを作成。ややさんらしさが伝わるパンフレットになった。会員、ご寄付頂いた方、医療機関、居宅介護支援事業所など広く配布。